

血液・感染症内科紹介

— 当院感染対策チームの紹介 —

血液・感染症内科 医長 木原 久文



感染症と我々の生活について

我々人類は抗菌薬や抗ウイルス薬を手に入れた現在でも、感染症とせめぎ合いながら生活しています。しかもそのせめぎ合いは、交通網の発達により一層熾烈になってきているとすら感じます。

例えば、今般の新型コロナウイルス感染症やアフリカで猛威を振るったエボラ出血熱などは、感染から発症まで時間差があるため、飛行機による大陸間移動が当たり前となった現代では、世界中どの国にとっても切迫した公衆衛生上のリスクとなっています。加えて、抗菌薬やワクチン、抗ウイルス薬などは決して万能ではなく、新たな治療薬や治療法の開発には多くの時間と費用、労力を要するのが現状です。

これらのリスクや懸念に上手く対処するためには、日々の生活の中で知恵を絞り、工夫を凝らすことが重要です。日常生活においてはいわゆる3密の回避、手洗い、マスクの着用、予防接種、食品衛生管理などを行うことにより、多くの感染症のリスクを低減させることができになりました。

しかし、日常生活における工夫を十分に行っていたとしても、感染症を100%予防できる訳ではありません。人類が生物として生活を続ける以上、感染症とのせめぎ合いはこれからも続きます。そして感染症患者を日常的に受け入れている医療機関では、感染症への備えはより一層重要なテーマとなっています。

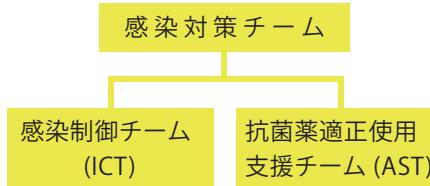
当院の感染対策チームについて

医療機関では、本来業務として肺炎や尿路感染症、腸管感染症など様々な感染症に対する診療を行っています。一方で、診療対象としている疾患とは無関係に時に予期せぬ感染症診療に臨まなければならない場面があります。

例えば、病院内でのインフルエンザの集団感染は、時に入院患者さんの生命を脅かしかねない重大な事象ですし、薬剤耐性を有している病原微生物の発生は感染症診療に大きな影響を与えます。そのため医療機関は、十分な院内感染対策を行うことが求められるようになります。

した。

当院にも前述の課題に対処すべく、感染制御チーム (Infection Control Team; ICT)と、抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team; AST)が編成され、院内各科の診療や外来部門、病棟部門の診療機能の維持・向上を陰ながら支援しています。今回は、当院の感染対策チームについてご紹介します。



当院の感染対策チームは、血液内科部長の成見医師を筆頭に、呼吸器内科部長の竹内医師、木原(筆者)の計3名の医師に加え、チームの要である感染管理認定看護師 (Infection Control Nurse; ICN)の浅井看護師、薬剤部や臨床検査室の経験豊富なスタッフからなる多職種混成チームです。



成見医師(中央)

機関との連携など、幅広い業務を行っています。また、院内感染対策講習会を定期的に開催するなど、職員教育も担っています。

次にASTですが、感染症治療において効果的な治療、副作用の防止、耐性菌出現のリスク軽減のため、抗菌薬の適正使用を支援しております。感染症治療においては感染症の種類や、起炎菌、患者さんの状態に応じて最適な抗菌薬、投与量、投与期間を考える必要がありますが、ASTでは感染症治療にあたる主治医の要請に基づき、あるいはAST側から治療案について提案をさせて頂いております。時に差し出がましい提案となる場合もあるかとは思いますが、必要に応じて参考にして頂き、治療効果の向上と耐性菌出現リスクの軽減に寄与できればと考え活動しております。



筆者(右端)、左端はICNの浅井看護師

↑ ↓ ASTミーティングの様子。
医師や薬剤師、臨床検査技師でタッグを組み、
皆さんを感染症から守ります！



筆者(右)とAST専従の鶴本薬剤師



写真1

感染症の原因を徹底除去。

最後に

当院の感染対策チームは日常診療の舞台裏から患者さんや各主治医、各部署スタッフをサポートしております。各部署における感染対策や抗生素の使用法等についてご質問等ありましたら、遠慮なくご連絡頂ければ幸いです。